

こうべ動物共生センターにおける教育事業ご協力のお願い 実施協力校(クラス)を募集しています！

動物共生教育（「いのちの教育」プログラム）

【令和4年度に2回実施（3つのプログラムで構成）・参加費無料】



アクティブラーニングの手法を用いて、すでに多くの自治体での導入実績がある奈良県「いのちの教育」プログラムは実施した小学校の評価も高く、全国の自治体職員や教育関係者が研修に参加し、すでに多くの自治体でも導入されています。

奈良県「いのちの教育」研究協議会（会長・国立大学法人奈良女子大学の天ヶ瀬正博教授、副会長・公益社団法人 Knots 理事長）が設置され、プログラムの内容を適宜ブラッシュアップし、教育効果の測定と効果の向上を実現する工夫を行っている先進的な取り組みです。このプログラムの実施に協力をして下さる学校（クラス）を募集しています（ご説明にお伺いさせていただきます）。

「いのちの教育プログラム」で使用するツール

・3つのエリアを示す扇形のパネル ・20種類の張り子の動物たち（イノシシ、ブタなど＝45～50cm）



実施の様子

01

実施方法

1 体 45～50cm ほどある大型の張り子の動物 20 体とパネル類を使用し、それらの動物を子どもたちが動かしながら人との関わりを学びます。

また、個々に配られたホワイトボードに書いたり、拡張心音計で自分と友達の心臓の音を聞き比べたりして、子どもたちが積極的に参加しながら実施します。

実施完了後は各学校と連携をして「ふりかえり」を行い、実施後に子どもたちの意識がどのように変化したのか調査・分析を行います。

こころの成長に必要な3つの要素を学ぶことができます

「いのちの教育」プログラムは、以下の3つのプログラムに分かれています。それぞれのプログラムで、「気づき」「共感」「責任」について学ぶことができます。

プログラムⅠ

私たちと動物の関わり
(私たちと動物とのつながり)

気づき

プログラムⅡ

動物たちと私たちの「いのち」は同じ
(動物たちの気持ちを考えよう)

共感

プログラムⅢ

動物たちのために私たちにできること
(私たちが動物たちに果たす責任)

責任



子どもたちが、手作りの大型張り子を運びながら、人間と動物との関わりに「気づき」、そして彼らの《いのち》に対する「共感」と「責任」を学びます。

学校の先生や保護者、子どもたちからも高い評価を受けています！

「いのちの教育」プログラムは、学校の様々な場面で実施可能です。こうべ動物共生センターの職員が実施いたしますが、先生方に実施方法をお伝えさせて頂き、自校式としての実施も可能です。

- ・プログラムのツール一式が揃っているので手間がかかりません。
- ・道徳や生活科の授業などで、「生命尊重」の授業として実施できます。
- ・授業参観でも実施可能。
- ・遠足と組み合わせて実施もできます。



アクティブラーニングの手法を用いているため、子どもたちが積極的に授業に参加する内容になっています。発言が苦手な子どもでも「書く」という行為や、相談しながら動物を「運ぶ」行為、自分と友達の心臓の音を聴き比べて「感じる」という手法も取りれており、子どもたちの関心を惹き付ける工夫がなされています。

【こうべ動物共生センターとは？】 <https://kobe-chai.jp/>

こうべ動物共生センターは、「Kobe Center for Human-Animal Interaction」という英語名が示すとおり、「人と動物の相互」の関係を大切にし、その影響を科学的に解明し、市民にフィードバックしていくような「共生」を柱とした事業を行います。



問合せ先 こうべ動物共生センター ☎651-1106 神戸市北区しあわせの村1番21号

電話：078-747-3061 FAX：078-747-3062 メール：info@kobe-chai.jp